

歯科技工士という 生業

シュンデンタルクリニック

鎌田 俊

院長



【略歴】

平成16年、岩手医科大学を卒業。平成18年、同大学口腔顎顔面再建学講座入局。平成19年、同大学大学院に入学し、平成23年に卒業。道内外の歯科勤務を経て平成28年、シュンデンタルクリニック開院。日本歯科麻酔学会認定医。岩手医科大学非常勤講師。日本顕微鏡歯科学会、SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry) 理事。歯学博士。

歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士をはじめとする歯科医療従事者は皆さまの生活の質向上のため、良質な医療を提供しなければなりません。今回は義歯製作を例に、さし歯や入れ歯を作る歯科技工士の仕事を紹介します。患者に義歯が必要になると、歯科技工士は医師と打ち合わせをし、患者の環境や要望、口の中の条件を十分に検討し、製作に入ります。場合によっては診察室に向き、顔の表情、口元の輪郭、義歯に対する要望、個性を見立てます。一人ひとりに合った義歯の製作に必要な事だと私は考えています。

歯科技工士は患者に合った歯を、心を込めて製作したいと日夜努力をしています。しかし義歯を本格的に作るうとすればするほど、高度な技術とそれに見合った時間を必要とし、皮肉にも歯科技工所が赤字経営になってしまうこともあります。また、一つの義歯に対する診療報酬が決められているため、できの良し悪しに関係なく歯科医院に支払われる対価は同じです。そのため、技工料金の安い歯科技工所へと仕事に移りやすい傾向があることも事実です。その結果、技工料金のダンピングが始まり、仕事に見合った報酬が得られず、若い優秀な歯科技工士の離職が

問題となり、今後10年、20年で優秀な歯科技工士の減少が顕著になる事が予想されています。医療の進展とともに新素材も次々と開発され、歯科医療の資質向上とともに高度な技術が要求されます。歯科技工分野においてはデジタル化が進み歴史的な変革期を迎えています。患者にとって本当に良い医療とは何か。歯科医師から始まるトップダウン構造ではなく、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が、知識と技術を持ち寄ってスクラムを組み、チームとして徹底したこだわりを持って医療の提供を行うべきです。

シュンデンタルクリニック

函館市石川町461-38 ☎0138-47-3737
http://shundc.jp

■診療科目／歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科
■診療時間／9:00～18:00 ※水・土曜は14:00まで
■休日／日曜・祝日

